



### お釈迦様のお誕生を祝う お花まつり

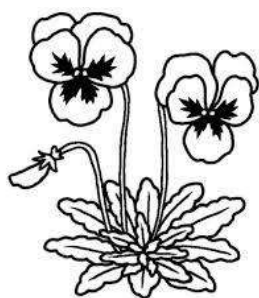
桜花爛漫の好季節を迎えました。  
山では毎年恒例、元気なイノシシが  
タケノコを掘る頃となりました(笑)

さて花々が咲き乱れる4月8日は、  
お釈迦様がお誕生された日です。  
お釈迦様は紀元前463年、ヒマラヤ山麓のカピラヴァスツ  
今のネパール タライ地区でお生まれになりました。  
お生まれになり7歩歩いてから、  
右手をあげて天を指し、左手をさげて地を指して、  
「天上天下 唯我独尊」と言われたと伝えられています。



昔、鎌倉建長寺の開山様である大応国師に対して、  
修行中の僧が尋ねました。  
「天上天下 唯我独尊とは何ですか」  
これは言葉の意味を聞いているのではなく、  
お釈迦様誕生の意味、仏法思想の根本を聞いているのです。  
大応国師は答えます。  
「衆生(人々)のために力を尽くすことだ」

さらに熱心な修行者は尋ねます。  
「お釈迦様は今、どこにいらっしゃいますか」  
お釈迦様がどこで生まれ死んだかなどという知識ではない、  
もちろん仏像でもない、哲学や観念でもない、  
生きた仏様を求めて求めてどうしようもなく、涙ぐんで尋ねています。  
大応国師は彼を愛おしむように答えます。  
「脚下(きゃっか)を看よ(みよ)」



「看脚下(かんきゃっか)」  
大智寺の玄関で日々ご覧になられていることと思いますが、  
禅宗のお寺の玄関にだいたい掲げられている禅語です。  
仏法の真理はどこか遠くに求めるものではなく、  
自分の足元に、自分の身の回りに既に満ち溢れている。  
自分の心の中をしっかりと見つめなさい。  
ほら、生き生きと動いている仏様がいるではないか。  
そう大応国師は諭しています。

わたしが わたしになるために  
じんせいの しっぱいも ひつようでした  
むだな くしんも ほねおりも かなしみも  
すべて ひつようでした  
わたしが わたしに なれた いま  
みんな あなたのおかげです  
おんじんたちに 掌をあわせ  
ありがとうございましたと ひとりごと  
(をさ・はるみ「独り言」)



「わたしがわたしになる」  
自分の心の中の仏様と完全に一体になり、人間として完成することこそ  
仏教徒として目指す姿ではないでしょうか。  
お寺ではもう少し暖かくなる5月5日 14時よりお花まつり法要を行います。

# 大智寺だより

平成 29 年 卯 月  
Vol.84

発行所

## 大智寺

岐阜市山県北野  
668-1

電話: 058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichi-ji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地  
の水小屋にてご自由にお取り  
いただけます。  
又、当寺ホームページにて  
過去の紙面を閲覧いた  
だけます。ご活用ください。

3月号発行部数  
200部

ご愛読  
ありがとうございます



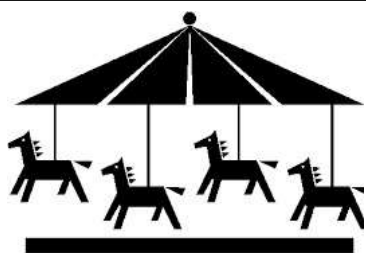
## NHK 花紀行 ～四季の名所めぐり～

花咲き誇る春を迎え、楽しいお花見へ  
お出かけされる方も多いことと思います。

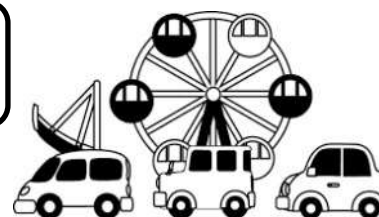
NHKでは、四季折々私たちの心を癒してくれる花々を  
毎月「花紀行」という名のDVDに編集し、

NHKファミリークラブ会員者対象に販売されているそうです。

1月から12月まで毎月ごとに盛りを迎える花を日本列島の名所・絶景とともに紹介する内容で  
今年8月中旬に発売される9月のDVDに、  
昨年の大智寺の彼岸花の映像が収録されることとなりました。  
このDVDをきっかけに、また多くの方々のご縁を結ぶことができればと願います。



## 弘法様のお参り ありがとうございました。



お彼岸も目前となり、ちょうど梅も盛りの  
3月16日、里1号の方々が弘法様の  
お参りをしてくださいました。

朝方は少し冷えましたが、朝8時半から弘法堂のお掃除をしてくださり  
きれいなお花をたくさんお供えくださいました。

9時から和尚様と一緒に読経をし、すがすがしいお参りとなりました。  
お蔭様でお彼岸中も、弘法様参りの方々に気持ちよくお参りいただくことができました。  
お忙しい中、ありがとうございました。

～ 他家の法要に出る機会の少ない奥様のため 若い世代のために ～  
(実際にお寺にご相談いただいたものから抜粋)



## お寺のこと、仏壇のこと、法要のこと etc わからないこと 質問帳 ③②



### 「お寺の本尊様の前にある鏡はなに？」

お寺にお参りすると、お焼香をする須弥壇の奥に  
本尊お釈迦様、その脇に地藏菩薩様、観音菩薩様が三体並んで祀られています。  
そしてよく見てみると、本尊お釈迦様の手前に台付きの丸い鏡が置かれています。  
よく神社では、ご神体として鏡や剣、玉が祀られています。  
お寺にも鏡があるのはなぜなのでしょう。

昔 ある寒い冬の夜、薪を燃やして暖を取ろうにも、燃やす薪がなくなり  
毎日欠かさずお経を唱え、供え物をし守ってきたお寺のご本尊様を、火にくべた和尚様がいました。  
「何をされる・・・よりによって仏様を・・・！！」周りの僧侶達がうろたえる中  
「何が仏様だ。こんなものはただの木だ。早くこっちに来て火にあたれ。風邪引くぞ」と一言。  
これは有名な一休禅師の逸話です。

一休禅師は「カラスは見えなくてもそこにいる（のがわかる）。仏もまた見えなくても心の中にいる」と悟られたといひます。

仏教はキラキラ輝く仏像を崇める偶像崇拜ではありません。  
あくまでも仏様は自分の心の中におられます。

本尊様の手前にある鏡は、それを教えてくれています。  
本尊様に手を合わせることは、そのまま自分の心の仏様に手を合わせていることなのです。

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～



お経のやさしい和訳（和讃）から  
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課経典  
31ページより

33

「<sup>はじ</sup>始めて何れも<sup>いす</sup>後悔し <sup>こうかい</sup>斯る<sup>かか</sup>憂目<sup>うきめ</sup>の有る<sup>あ</sup>ならば」

人生の大失敗とまではいかななくても、  
「やっぱりタイムセールのトマト買えばよかった」「近道しない方が早く着いたなあ」などなど  
私たちは日々小さな後悔をしながら「次こそは、明日こそは」と自らを励まして生活しています。  
でも、本当は「次」も「明日」もない たった一瞬を前進あるのみで進んでいるだけなのだと  
理屈なく教えてくれるのが「出産」です。

赤ちゃんはとんでもない危険を犯して、  
安らかに眠ってられる心地よい母体から外の世界に出てきます。  
「次こそはもっと上手に出るぞ」と思っても「やっぱりお腹の中の方が安心だったなあ」と思っても  
もう母体に戻ることはできません。

自分の一挙手一投足その一瞬一瞬は、出産と同じ重みがあり  
やり直しのできない一歩一歩なのだと思うと、今できる最善を尽くそうという気持ちが湧いてきます。  
常に自分の心の中にいる仏様の声に耳を傾け、その声に従って今できる最善を尽くしていれば  
斯る憂目は見ずに、後悔のない人生となるはずです。

春の風

暖かい春の風にゆられて、色とりどりのチ  
ューリップがニコニコ笑いかけてくれるこの  
頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

幼い頃、道端でタンポポ、レンゲ、シロツ  
メクサなど摘んで遊んだ思い出は多かれ少な  
かれ誰も持っていないのではないでしょ  
うか。特に時間がかったのが、四つ葉のク  
ローバー探しでした。「幸せになれる」という言  
葉を胸に、目を皿のようにして探しましたが、  
見つかったためしがなく、友達が見つけると  
なんだか悔しい思いをしたものです。そんな  
四つ葉のクローバーですが、調べてみると、  
成長過程で踏まれて割けたり傷付くことが発  
生要因のひとつに考えられているそうです。

「春色無高下（しゅんしょくこうげなく）  
花枝自短長（かしのすからたんちよう）  
春、太陽の恵み、雨の恵みは同じように受  
けても、その木が南を向いていたか北をむい  
ていたかで姿に違いが現れてきます。これは、  
平等中の不平等です。三つ葉があり四つ葉が  
生まれます。でも短い枝があり長い枝があり、  
曲がっている枝があって、どれも優劣なく完  
成しています。

人も然り、目立つような希少性はなくても、  
人として立派に呼吸をして今生きているとい  
うことは上等なことだと胸を張ってみると、  
足元の三つ葉のクローバーも負けずに胸を張  
って「そうよ」とうなずいてくれているよう  
に見えてきます。

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

春の味 タケノコと木の芽のお味噌汁

- ① ゆでたタケノコの穂先をひと口大のくし形に切る。
- ② 鍋にだし汁を温め、タケノコを加えてさっと煮て味噌を入れる。
- ③ 火を止めて器に注ぎ、粗く刻んだ木の芽をのせて出来上がり。  
好みですりごまを振ってもおいしいです。



タケノコは大きいので部分ごとに分けて、若竹煮にしたり、タケノコご飯にしたり、天ぷらにしたり  
楽しめます。ゆでてあく抜きをしておけば、冷蔵庫で保存できます。タケノコの時期になると、米糠  
をちょいちょい頂きに行き、採れたタケノコを朝からあく抜きする日が続きます。



♪ 月に一度はお寺まいり ♪

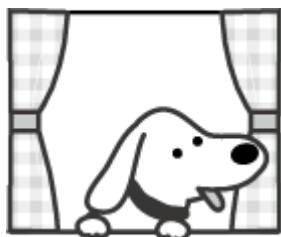
初心者 大歓迎  
東日本大震災物故者追善供養  
毎月 第四日曜日  
定例写経会

今月の日程

4月23日(日) 一回 500円  
(朝8時~9時) (内300円は義援金)  
要申込

3月写経会 備忘録

しとしと春の温かい雨の降る日曜日、今年度最後の写経会となりましたが大勢お集まりいただきありがとうございました。今回は有名な落語「時蕎麦」を楽しんでみました。何度見てもおもしろい落語です。暖かくなってきたので裏山の椎茸をお土産に差し上げました。また来年度もどうぞよろしくお祈りいたします。



お釈迦様が生きていた頃  
あんな人、こんな人

第四話 「せっかくきれいに生まれても」  
ラーフラさん



お釈迦様には、出家される前に生まれたラーフラさんという一人息子がいます。  
ラーフラさんは9歳の頃、お城を出て見習い修行僧となります。  
ところが、なかなかのいたずら好きだったようです。

訪れた信者さんに「お釈迦様は今どこにおられますか」と聞かれても、  
靈鷲山におられる時は竹林精舎に行かれたといい、  
竹林精舎におられる時は靈鷲山に行かれたといい、とかく人をうろうろさせていました。

この話を聞いたお釈迦様はラーフラさんの宿舎へやってきました。  
ラーフラさんの差し出した桶で足を洗いながら「ラーフラよ、この水が飲めるかな」と聞きます。  
「汚れていますので、とても飲めません」とラーフラさんが答えると、  
「ラーフラよ、せっかくきれいな赤ん坊に生まれてきても、それを磨く修行を忘れ、  
口も守らないお前の心はこの水と同じように汚れている」とお釈迦様は一喝し桶を蹴り飛ばしました。  
「桶が壊れると気にしたか」「いいえ、安物ですから気にしません」  
「行を励ます、人をだまして喜んでいるお前は、やがてこの桶のように  
人から気にされず、惜しまれず、悟りも開けず迷いながら人生が終わってしまうぞ」  
ラーフラさんはあぶら汗をかきながらお釈迦様のお話を聞き、精進を決意されたとのことでした。

ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む  
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、  
ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、  
その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。  
必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、  
葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めて  
まずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～  
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方が  
いなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒に  
ひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。  
永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから  
「完全個別永代供養墓」といいます。  
詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、  
ご予約の上 ご来山ください。